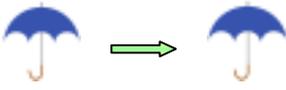
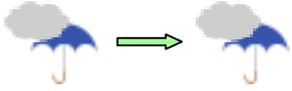
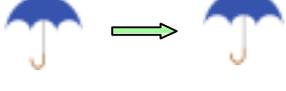
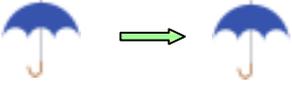
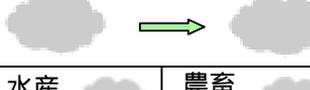
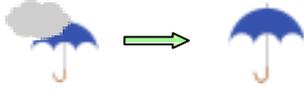
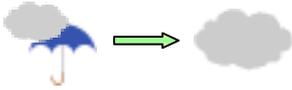


【産業動向概要】

産業全体 	<p>11年8月を中心とした県内経済は、サプライチェーンの復旧により生産が回復し、それに伴って輸出もプラスとなっている。一方で、雇用・所得環境は冷え込んだ状態が続いており、その下で個人消費は低調に推移している。県内経済は、東日本大震災の影響が和らぎ、持ち直しつつあるが、円高などから先行き不透明感が出ている。</p>
--	--

観光・旅館業			<p>夏休み期間中の伊豆地区の宿泊客数は概ね前年並みから減少、消費単価や売上高は前年比マイナスで推移したものとみられる。海水浴客が全域で大幅に減少、猛暑だった前年度の反動に加え、震災による影響などが指摘されている。</p>
紙類			<p>県内メーカーが生産する再生紙物トイレトペーパーの価格は震災後の上昇からやや下落、各社は再び価格修正に取り組む。段ボール原紙の需給は比較的安定も今後はやや不透明。大手メーカーは製品価格引上げに動いている。</p>
水産業			<p>静岡県主要漁港である焼津港の水揚量は、マグロ類、カツオ類など全般にわたり増加し、全体では前年比9.2%増、沼津港はサバ類の減少が響き同▲2.7%減となった。一方魚価は、カツオ類は単価を上げたものの、マグロ類をはじめ他魚種が単価を下げた結果、魚種全体の平均単価は前年同期比▲3.7%下降した。</p>
一般機械（主要）			<p>金属工作機械は前年比大幅なプラスが継続も、中国の金融引き締めの影響からプラス幅が縮小。なお、国内向けは自動車メーカーの設備更新の動きから堅調に推移。金型も8ヵ月連続してプラスとなるが円高の定着化など先行き不透明感が出てきている。</p>
木材			<p>県内新設住宅着工は減少傾向も、住宅エコポイントの終了による駆け込み需要により7月は増加。製材品の県内生産量は減少、素材価格も輸入材との競合など需給の緩みから下落傾向にある。</p>
缶詰			<p>水産缶は主力のツナ缶が前年同期比28.4%と大幅増、震災以降需要は堅調に推移している。農畜産缶全体の生産量は前年同期比増加に転じ堅調。飲料缶類は5四半期連続で前年実績を上回るも、8月は猛暑だった前年の反動で生産量は減少。</p>
楽器			<p>ピアノは、8月の生産台数が半年振りに前年実績を上回ったが、6月～8月は、緩やかながら減少。電気・電子ピアノの生産台数は、東日本大震災や内需低迷を受けの影響を受け前年実績2桁減。電子オルガン、電子キーボードは電気・電子ピアノよりも落込みが激しく、生産台数はともに前年実績の4割減。</p>

輸 送 用 機 器			遠州地域の二輪車生産台数は国内販売の底入れから前年並みに推移。また自動車部品生産金額（県内）は、急速に回復し、7月単月でプラスに転じる。県内部品メーカーは木・金休業の終了に伴う10月からの増産態勢へ対応を急ぐ。
	二輪車 	自動車部品 	

				
明　　る　　い	やや明るい	停　　滞	やや不振	不　　振

《産業別天気マークの推移》

 明るい
  やや明るい
  停滞
  やや不振
  不振

調査対象時期 (公表時期)	09/7 (09/9)	09/10 (09/12)	10/1 (10/3)	10/4 (10/6)	10/7 (10/9)	10/10 (10/12)	11/1 (11/3)	11/4 (11/7)	11/8 (11/10)
概況 		→		→					
観光・旅館業 		→		→		→			
紙類 			→					→	
水産 		→							
一般機械(主要) 		→		→		→			→
木材 		→							
缶詰 		→					→		
楽器 		→		→		→			
輸送用機器 		→		→		→			